

運動施設改良のための基礎的調査と検討

木更津高専 学生会員 ○大田悠介
木更津高専 正 会 員 鬼塚信弘 金井太一

1 はじめに

現在わが国では、寝たきりの老人や生活習慣病にかかる中高年が増えている。その対策としてあげられるのが生涯スポーツの推進であり、自ら運動などを行うことによりこれらの病気を病院などにかかる前に予防(一次予防)することに注目が集まっている。本研究では千葉県内の人口分布、市町村別の国民健康保険医療費(医療費)をもとにして運動施設を必要としている地域を抽出する。そしてその地域にある運動施設を誰もが気軽に利用できるような施設に改良する方策を検討し、地域の生涯スポーツの推進を考える。

2 アンケート調査

本研究では、スポーツに対する住民の関心度を把握するために、木更津高専の学園祭でスポーツに関するアンケートを実施した。このアンケートの主要な結果をまとめたものを図-1、2に示す。図-2はスポーツをしていないと答えた人の中の有効回答数のみ採用したデータである。アンケート数は50人で、結果はスポーツに関心はあるものの実際にスポーツをしている人はその1/3程度しかいないことがわかった。またスポーツを実施しない理由は、「時間がない」という回答が多かった。

3 千葉県人口分布と人口割合¹⁾

千葉県は総人口 600 万人の都市で、6つの地域から成り立っている。人口分布には大きな偏りが見られ、都心への通勤圏内と京葉工業地帯沿いに人口が集中しており、千葉県南部(内房、外房地区)は人口が少なくなっている。また老年人口数(65 歳以上)も総人口数に比例しているが、老年人口割合は、都心から離れるにつれて高くなる傾向になっている。千葉県南部のいくつかの市町村は老年人口割合が30%を越えており、全国平均の老年人口割合の17.42%を大きく上回っていることがわかった。

4 千葉縣市町村別の国民健康保険医療費

現在、医療費にお金がかかっている地域から運動施設を必要としている地域を抽出するため、千葉縣市町村別の医療費の調査を行なった(図-3)。千葉県で最も医療費がかかっているのは内房地区である。また内房地区の主要な市

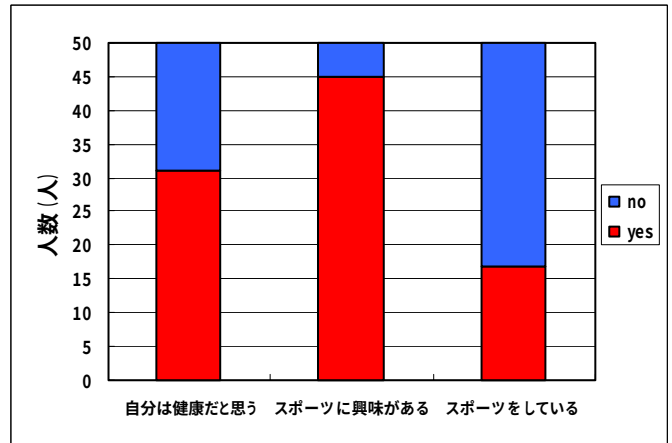


図-1 スポーツに対する住民の関心度

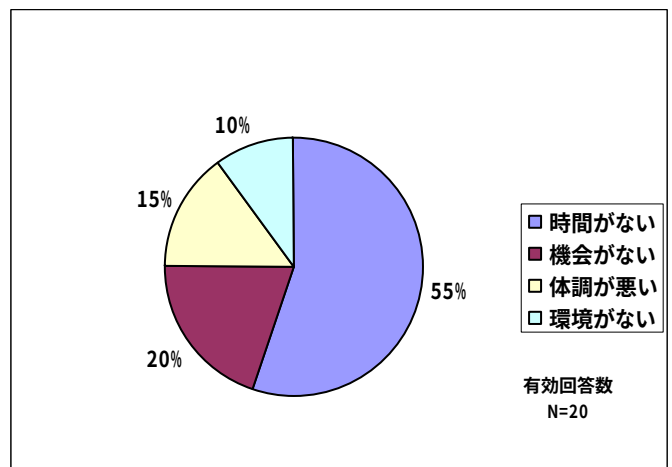


図-2 スポーツを実施しない理由

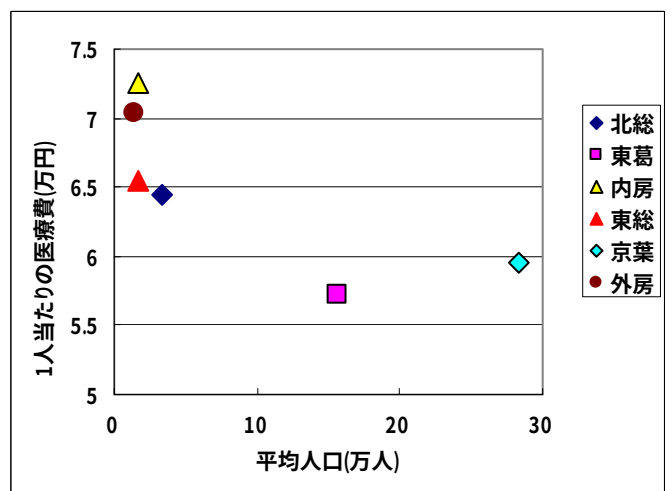


図-3 千葉県の人口と国民健康保険医療費

キーワード：生涯スポーツ、運動施設の改良、国民健康保険医療費、ウォーキング

連絡先：〒292-0041 木更津市清見台東2-11-1 木更津高専 TEL0438-30-4161 E-mail: onizuka@kisarazu.ac.jp

表－1 木更津、君津市のウォーキングロードの状況

施設名	距離	舗装の種類	所在地	人口割合 (%)	歩きやすさ	景観	夜間の 視認性	道のネット ワーク化	利用状況	総合評価
うまぐたの路	2.4km	土	木更津市 馬来田	2.4	△	△	×	△	×	×
矢那川青春ロード	3.5km	アスファルト	木更津市 請西～大和	5.3	×	△	△	△	×	×
小櫃堰公園	1.3km	アスファルト	木更津市 祇園、清川	5.7	△	○	△	○	○	△
君津小糸川右岸 ジョギングコース	3.5km	ウレタン (弾性舗装)	君津市 南久保～人見	6.1	○	△	△	×	○	○

である木更津市は、内房地区の他の市町村と比較すると年齢が上がるにつれて医療費が高くなり、一次予防が他の地域に比べて遅れていることがわかった。

5 運動施設調査

2, 3より、高齢者が増えていることや、スポーツに興味はあるものの実際には行っていない人が多いことがわかり、これらの人々に適したスポーツは、勝敗を競うスポーツよりも楽しみながらできる生涯スポーツが望ましいと考えた。その中でも既存の運動施設等を利用し誰でも手軽に行えるウォーキングに注目し、調査を行なった。

5-1 地域、コースの選定

調査地域は、3, 4より木更津市、君津市とした。既存の運動施設等を調べると、木更津市は市のWebページ²⁾の情報と電話による各地区公民館からの情報をもとにウォーキングロードがあることがわかり、その中の3つのコースを調査することにした。また君津市³⁾では、市が健康増進をテーマにして設けたジョギングロード1つを調査した。

5-2 木更津市と君津市の運動施設の状況

木更津市と君津市の主要なウォーキングロード状況について分析した結果を表－1に示す。人口割合はコース付近(半径 500m以内)の住民数を市民の人口数で割り百分率で表したものである。歩きやすさは道幅、距離を示す看板などの有無などから判断した。

うまぐたの路は自然の中を歩くコースでハイキングコースに近く、ウォーキングを行うには適していなかった。矢那川青春ロードは一方通行の道路で自動車が走っており、歩きやすさには欠けるが、場所や付近の住民数も多いので、改良の余地があると感じた。小櫃堰公園のウォーキングロードは、公園内コースを自由に歩くことができ、駐車場もあるので利用状況も良かった。小糸川右岸ジョギングコースは遊歩道が設けられ、足に負担の少ない弾性舗装が敷かれていてとても歩きやすく、500m ごとに距離表示板が設置されていて利用状況も良かった(写真－1)。



写真－1 小糸川右岸ジョギングコース

総合的に見ると、小糸川右岸ジョギングコースが歩きやすいよう整備が施されていて利用状況もよく、一番良いと判断した。

6 まとめ

千葉県および木更津市、君津市の人口分布、国民健康保険医療費、ウォーキングロードを調査・分析した結果、どの地域にもウォーキングロードはあるものの、利用状況は施設によって偏りがあることがわかった。この問題に対しては、市が積極的に関与してコースの整備を行うことにより、市民の運動に対する意識を高めて利用状況が改善され、ウォーキングを含む生涯スポーツの推進が図れるものと考えられる。

謝 辞

本研究は、(社)国民健康保険中央会に国民健康保険医療費のデータを提供していただいた。ここに関係機関に謝意を表します。

参考文献

- 1) 千葉県：http://www.pref.chiba.jp/
- 2) 木更津市役所：http://www.city.kisarazu.chiba.jp/
- 3) 君津市役所：http://www.city.kimitsu.chiba.jp/
- 4) 伊藤忍・鬼塚信弘・金井太一：生涯スポーツ施設の現状と課題，第 31 回土木学会関東支部技術研究発表会講演概要集，2004。